

福島市職員 ひとり1改善・1改革運動 「かえるチャレンジ」



令和7年10・11・12月分
月間賞 受賞一覧





《改善》 生ごみ処理容器購入費助成事業における 団体申請制度の導入

〈取組内容〉

個人申請のみ受け付けていたが、申請件数が増加しており、助成金交付事務の負担が増加していた。

要綱を改正し、「個人申請」に加え、複数人（5名以上）をまとめた「団体代表者名」での申請を可能とする制度を導入した。

〈効果〉

- ・ 振込手数料が削減された。
- ・ 申請者の負担軽減、交付事務の効率化や事務ミス防止につながり、サービス向上につながった。

《改善》 支所公式LINEで通知を効率化！

〈取組内容〉

外部団体12団体に対し、年間約500通の通知を紙文書で発出しており、配達作業を含め大きな業務負担となっていた。支所公式LINEを開設し、通知業務をデジタル化した。

〈効果〉

- ・ 通知の迅速化、漏れ防止が図られた。
- ・ 紙や作業時間の削減となった。

《改善》捨てていた本がお金になった ～～除籍本有償頒布会～～

〈取組内容〉

図書館では毎年2万冊の除籍本を古紙として搬出していた。まだ読める本ではあるが、透明カバー付きのため買取価格は0円だった。

図書ボランティアの会に無償譲渡し、会が1冊100円で販売。収益で図書館へ本を寄贈する旨の協定を結び「除籍本有償頒布会」を開催した。

〈効果〉

- ・出品冊数約2,000冊、来場者数580名。
- ・販売冊数1,450冊、売上金額145千円。
- ・図書館で本を選書し、88冊寄贈いただいた。

《改善》 クラウドサービスを活用したクマ目撃情報等のスピーディーな共有

〈取組内容〉

担当課ではクマ目撃等配信メールを受信後、該当校へ電話連絡し、対応状況についても個別に確認を行っていたため、対応の遅れや業務負担が課題となっていた。

各学校がクマ目撃等配信メールを直接受信できるようにするとともに、「ふくしま教育クラウドサービス（県独自のGoogleアカウント）」を活用し、Googleチャットやフォームによる情報共有体制を構築した。

〈効果〉

- ・担当課と学校で情報の一元管理とリアルタイム共有が可能となった。
- ・対応状況が共有されることで、地域全体の安全確保につながった。

《改善》ひとり親家庭医療費助成事業更新入力と受給者証印刷の自動化

〈取組内容〉

毎年約1,700世帯分の更新入力と約1,500世帯分の受給者証印刷を手作業で行っており、大きな業務負担となっていた。

自動化ツール「Sikulix（シクリ）」を活用し、更新入力及び印刷作業を自動化した。

〈効果〉

- ・作業時間を大幅に削減するとともに、入力ミスや修正作業が減少した。
- ・自動化によって生産性が向上し、より付加価値の高い業務に集中できるようになった。